

看護職員再就業支援事業 ～あなたの資格、活かしてみませんか！～

(公財) 茨城県看護教育財団

当財団のある県西地域は、県内でも看護職員が不足しているため、平成25年度から開始されました再就業支援事業を県から受託し、地域の看護職員確保に取り組んでいます。

看護職員が結婚、出産などで離職し、子育てが一段落して再就業を考えたとき、看護の仕事に魅力を感じつつも進歩した医療現場で勤務できるのかと不安になり、一歩前に踏み出せないのが現状です。

このような方々の再就業と定着を促進するためには、身近な地域に研修の場を設けて看護実践に必要な知識や技術を提供することや、就業相談などの支援によって不安を解消し後押しすることが大切です。

本事業は、まず、研修生の募集と併せて、再就業の不安を理解したうえで支援して頂ける病院などを、訪問により募集することから始まります。

研修内容は、①講義研修（5日間）、②実務研修（5～10日間）、③雇用一体型試用研修（3か月以内）があり、研修生の希望に応じて組み合わせることができます。また、子育て中の方が受講しやすいように、講義研修の期間中は一時預かり保育を設けています。

講義研修では、最近の看護の動向や看護技術の演習などにより、知識や技術の再獲得を目指しています。また、再就業を望む仲間や「復職して良かった」と感じている体験者との交流を図っており、「気持ちが楽になり、勇気づけられた」「頑張ろうという意欲が湧いた」「迷っている背中を押してくれた」などの声が聞かれました。

実務研修や試用研修は、病院等での実践的な看護の研修になりますので、コーディネーターが研修生一人ひとりの再就業に対する思いに耳を傾け、課題を共有したうえで、



フィジカルアセスメント演習

希望する病院と研修の条件等の調整をしています。また、研修期間中には各病院を訪問して研修生や指導者と面談し、研修状況を確認しながら目標を達成するための支援をしています。

一方、受入れ病院では、研修施設に選んだ研修生を大切に思い、研修の場所や時間などの希望に配慮し、受入体制を整えて丁寧に根気強く指導しています。研修を終えた研修生からは、「ブランクがあり全てが不安だったが、研修生という立場で指導を受けられ、安心して研修に臨めた」「家族の都合等を考慮して研修時間を調整するなど、親身に相談にのって頂き、復職に自信を持つことができた」などの意見が多く聞かれました。

こうした支援により、平成25年度は12名が再就業しました。今年度は、研修生21名の申し込みと研修受入れ病院21施設の登録があり、現在、実務研修や試用研修に向けた調整に取り組んでいます。

今後も、再就業を希望する方々の気持ちに寄り添い、きめ細やかに支援してまいります。



看護倫理の講義



感染管理の講義・演習



一時預かり保育

「眼科は、専門性が非常に高い分野。目というのは小さいけれど実は大きな世界で、中身はとても深くて広いのです」～眼科医からのメッセージ

守谷市でアイクリニックを開院し、高度で安心して受けることができる医療、地域に密着した医療を実践されている伊藤睦子先生に、眼科医の仕事についてお話をうかがいました。

…眼科を選ばれたきっかけは？

伊藤 私の学生時代は、4年生と5年生の時に病院実習がありました。臨床実習をして専攻を決めるのですが、最終的には個人で夏休みを利用し、病院を数ヶ所見学して、どの診療科が自分に向くのかと考えました。私は外科系が希望だったので、外科を見学していたのですが、たまたま知人の先生から、「これからは眼科だよ」という運命的なひと言があったのです。学生というのは、産婦人科とか内科とか外科とかメジャーでダイナミックなところに目がいくのですが、そのひと言で眼科はマイナーな科でもスペシャリティの高い仕事をしているということに気づきました。ちょうどその頃は眼科が過渡期で、治療法も限られていたものが、先進的なものに次々と変わっていく時代でした。手術しかり、治療しかり、どんどん新しくなっていくところに入ったので、私としては非常に面白かったです。

目というのは小さいですね。でも、実は大きな世界だということが認識できました。眼科は、ミクロの世界、1ミリの何分の一の世界の症例を検討するのですが、中身はとても深くて広いなという印象でした。私としては眼科の仕事に携われて、とても良かったと思います。

●患者さんに喜んでもらうことが励みです。

…開業されたのはいつですか？

伊藤 平成10年です。それまでは、現在のJAとりで総合医療センターに勤務していました。椎貝達夫院長、東京医科歯科大学所敬教授、とても理解のある先生たちでした。たとえば私に経験のない手術があると、講師を大学から呼び、手術のトレーニングをしてくれました。

医学博士・眼科専門医
いとう眼科院長 **伊藤 睦子**



また、レベルの高い手術の時には、サポートを大学から必ず呼んでくれました。そこで働いて、自分が年々スキルアップすることがわかるのが楽しかったです。第一線の病院で勤務医をするということは、非常に重要なことです。開業は、患者さんに近くて、働き方のスタイルも自分で選べます。そのとき、医師としてのキャリアをどんどん積む過程の勤務医時代の考え方とか仕事の仕方が反映されていくのかなと思います。あとはやはり、ボスがいい上司で理解があるといいですね。ボスに理解があるというのは、部下を楽にさせようということではなく、スキルを身につけたいという人が部下にいれば、身につけられるようなシステムをつくってあげられるということだと思います。

当院には今、私以外に短時間正規雇用のドクターが2人、パートのドクターが5人います。私は県の仕事とか医師会の仕事もあるので、彼らに支えられています。私も良いボスでありたいと思います。

…仕事のやりがいは？

伊藤 やりがいは、日々感じます。昔は開眼手術と言って、手術で全く見えなかった人が見えるようになったということを手を合わせて喜んでいただけました。今は機能を高め、単に見えるだけでなく、さら

によく見ることができるよう治療をするので、喜ばれます。「患者さんの見える喜び」を励みに仕事をするという点で、眼科を選んで良かったと思っています。また、大学病院などは開業医などからの紹介により診てもらいますが、開業医というのは患者さんの家族に近い存在だと思います。たとえば「コンタクトでかかっているから、おじいちゃん、おばあちゃんを連れて来たよ」、あるいは「親戚の人がかかっているから来たよ」という声を聞くと励みになります。そういうつながりが大切で、開業医というスタイルは本当に患者さんとダイレクトであると思います。

●女性医師のロールモデルになるように頑張っています。

…女性医師へのアドバイスを

伊藤 もう一世代か二世代が過ぎないと本当の男女平等は来ないのかもしれないのですが、出産育児以外は男女は平等です。でも、性差というのはあると思うのです。たとえば、審美系の運動だったら女性の方がきれいな気がするのですが、スピード系や体力系は男性の方がいい。それはやはりあるのかなと思うので、大事なことは、自分は何を本当にやりたいかということだと思います。私も、一時期外科に進もうと思ったこともありますが、自分の体力を考え、長時間の手術中ずっと立っているのは無理だと思いました。

自分の中で、男性とか女性とかではなく、できることは何かな、好きなことは何かなということをおき詰めていけば、出産育児があっても、それほど挫折することはないと思います。今は女性医師を応援している社会ですからね。自分が好きなことで能力を発揮できて、人に貢献できて、人生が全うできる。今のライフスタイルで良かったねと言えるように設計をしっかり持っていないと、女性はいろいろな場面場面でその時の状況に流されやすいのかなと思います。方向転換はしてもいいと思うのですが、モチベーションを高めてしっかりとゴールを見据えてほしい。そして各人が、女性医師のロールモデルになれ

るように頑張ってください。

…仕事と子育ての両立のご苦労は？

伊藤 確かに仕事と子育ての両立は大変なことですが、子どもたちと過ごす時間や子どもたちの成長が、私に大きなパワーをくれました。子どもたちと一緒に成長したいと思いました。私が出産した当時は、今のように育休などはなく、産前産後4週間だけ休んで仕事に復帰しました。子どもは4人おりますから、保育所を8年間利用しました。親として楽しい時間でした。幸い、保育士の先生も良い方に恵まれ、ずっとおつき合いがあり、患者さんになってくださったりして今でも仲良しです。その保育所のOBの方たちが、私のクリニックの3階に保育所を立ち上げてくれました。私は保育所の経営者でもあります。

●一度きりの人生。明るく前向きに。

…若手医師、医学生に向けてのメッセージ。

伊藤 やはり、「継続は力なり」です。本当に好きだったから、この仕事を辞めませんでした。自分で選んで自分でやるんだったら、失敗も乗り越えられます。いろんなことを乗り越えて進歩していくわけですから、たとえつまづくことがあってもそれを自分の糧と捉えて、成長していくチャンスにしていって欲しいですね。一度きりの人生です。明るく前向きにがんばりましょう。

茨城県で医師を目指すなら、茨城県は自然は豊かで、子育てしながら働くにも良い環境です。医師不足を解消するには、子育てしやすいということも大事ですからね。また、都内にも近いし、文化的なことでもできます。うちの子どもたちは、二人は医師として茨城に戻ると言っていますから、少しは茨城県に貢献できると思います。地域に住んで、地域に合った医療を展開していくことが本来の医療を提供する上で大切なことです。国も地域完結型の医療を目指しているようですから、これから、茨城に残る医師や研修医が増えてくることを期待しています。

病院紹介コーナー



株式会社日立製作所 日立総合病院

当院は、株式会社日立製作所の企業立病院として「工場衛生と民衆治療のため」という理念のもとに1938年1月に開院しました。茨城県北部地区の中核病院として、高度専門医療としての急性期疾患治療、がん専門治療、救命救急医療、地域災害医療センターなど、高機能で良質な医療を提供しております。

2012年10月に救命救急センターを開設し、茨城県北部地域唯一の三次医療機関として年間4,826台（2013年度実績）の救急車を受入れています。

外来患者数約1,000人／日、休日夜間外来患者数約17,000人／年と患者数の多さと各科の症例の豊富さから当院の研修は、common disease から重症・稀少疾患まで多様な症例が経験でき、手技を習得することができます。

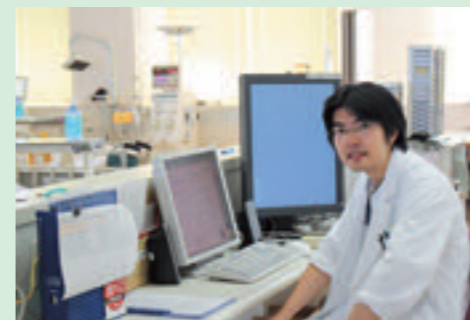


2015年度中には、地下1階、地上11階の本館棟（ヘリポート設置）が完成予定であり、ハイブリット機能を持った高機能の中央手術室、緩和ケア病棟、生活習慣病センターなど、より充実した環境が整備される予定です。

研修医、医学生につきましては、是非、1度見学にお越しいただき当院の研修環境をご確認下さい。充実した指導体制のもと意欲ある研修医をお待ちしております。

研修医Relay Essay レーエッセイ

茨城西南医療センター病院
初期研修医 **池邊 記士**



群馬大学を卒業し、茨城西南医療センターで研修医として働くようになってそろそろ半年が経ちます。思えばつい最近まで学生だったわけですが、医者としての生活にもだいぶ慣れてきたように思います。現在医学生の皆さんとしては、臨床の現場で働くということがどういうものなのかといったあたりは気になるころだと思います。医者になってからの生活は毎日何かしら新鮮な経験がありますが、同時に、何となく知識として知っていることと実際に経験することの間には大きな差があることを感じます。特に救急の場面では、そういったことを痛感します。

当院の研修医当直では、指導医の先生と二人で救急車対応をすることになっています。救命救急センターとして三次救急を担う病院ですので、時に研修医としてはだいぶインパクトの強い患者さんを診ることもあります。初めのうちはわけも分からず頭の中も真っ白になりがちだったのですが、指導医の先生や看護師さんたちに教わりながらなんとか対応していくうちに、少しずつ行動に自信が持てるようになってきました。

皆さんも研修するようになったら、まずは体を動かしてみるのが仕事に慣れる近道だと思います。そしてそんな研修に興味のある方は、ぜひ茨城西南医療センターにお越しください。

平成26年度 夏のイベント開催報告

修学生サマーセミナー（低学年）



日時／8月19日（火）～8月20日（水）
対象／修学生・地域枠学生1～3年
内容／●取手市福祉会館「取手・竜ヶ崎地区の概況」
●総合守谷第一病院、JAとりで総合医療センター見学
●講演会（利根町国保診療所 中澤先生）
●牛久愛和総合病院、つくばセントラル病院、東京医科大学茨城医療センター見学
●予科練平和記念館見学 ●交流会
●宿泊 ホテルレイクサイドつくば

参加者の声

- 実際に働いている医師の生の声が聞けてとても参考になった。
- 医師として将来どのような場所で働くのかイメージできた。
- 修学生といろいろな情報交換ができ、モチベーションがあがりました。

修学生サマーセミナー（高学年）



日時／8月15日（金）～8月16日（土）
対象／修学生・地域枠学生4～6年
内容／●亀城プラザ「県南地区の概況」
●土浦協同病院見学
●霞ヶ浦医療センター見学
●石岡第一病院見学
●地域見学
●交流会
●宿泊 国民宿舎つくばね

参加者の声

- 初期研修の病院選びのポイントなどが聞けたのが良かった。
- 地域の全ての人が夢と希望をもって地域をよくしていこうとする力が大切だと分かった。
- 県や病院の先生方が、親身になって相談にのってくださり、少し将来への不安が軽くなりました。

地域医療研修会



日時／8月28日（木）～8月30日（土）
対象／医学生
内容／●大子町内医療機関の見学
●院内診療・救急医療の立会い、往診同行
●地元医療機関医師等、関係者との意見交換および懇親会

参加者の声

- 今まで実際に患者さんを診察しているところは見たことがなかったため、とても新鮮なものに感じることができた。ベテランの先生の手際の良さに感動した。
- 大学病院と医師不足地域では求められる医師の仕事が異なると思うので、実際のありのままの職場を見ることができてよかった。

茨城県からのお知らせ

茨城県地域枠募集のご案内

将来、知事が指定する医療機関において、医師の業務に従事しようという意思のもと、茨城県地域枠で以下の6つの大学医学部に入学された方に対して「茨城県地域医療医師修学資金」を貸与します。

受験資格

次のいずれかに該当するもの

- (1) 県内の高等学校を卒業(見込みを含む)した者
- (2) 県内に居住する者の子

※平成27年4月に茨城県地域枠入学者として入学した後、修学資金貸与のための契約を締結します。

貸与額 150,000円/月

貸与人数 (計38名)

筑波大学 22名 東京医科大学 8名 東京医科歯科大学 2名
杏林大学 2名 日本医科大学 2名 北里大学 2名

※日本医科大学は「地域医療医師修学資金貸与制度枠」として設置しています。

県の面接

筑波大学・東京医科大学

出願期間 平成26年 9月 9日(火)から10月 8日(水)まで (当日必着)

面接日 平成26年10月18日(土)または19日(日)

東京医科歯科大学・杏林大学・日本医科大学・北里大学

出願期間 平成26年10月14日(火)から11月12日(水)まで (当日必着)

面接日 平成26年11月23日(土)または24日(日)

総合診療を学ぶ特訓ゼミ【第3シリーズ】



総合的な臨床能力をアップさせる実践力養成のためのゼミ。講義「バイタルサインの解釈」をはじめ、症例発表や講義・ケースカンファレンス等により、2日間にわたって学んでいただくゼミです。

第3シリーズ

総合監修：茨城県地域医療支援センター特別講師

JCHO研修センター長・総合診療教育チームリーダー
徳田安春氏

内容：徳田安春先生による開講講座。松本謙太郎先生、Richard Birrer先生による講義・ケースカンファレンス。若手医師による症例発表・指導医によるフィードバック(30分×10回)

対象：全国の医師・医学生 100名

日程：平成26年11月29日(土)・11月30日(日)

場所：いこいの村溜沼 茨城県鉾田市箕輪3604

募集期間：平成26年11月19日(水)まで

参加費：12,000円(宿泊費、昼食代等含む)

申込方法：茨城県地域医療支援センターホームページ(下記URL)よりお申込みください。

なお、症例発表者も併せて募集しています！

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp